

清流

題字：芳野 充

令和2年1月30日
第37号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

損して徳とれ

ことわざで、「損して得とれ」とあります。意味は、「一時的には損をしても、将来的に利益になることを考えなさい」という言葉です。

「得」の意味は、「利益を得ること」「もうけること」「有利であること」とあります。しかし元々の由来は「得とれ」の「得」は、「徳」だったそうです。「徳」とは、「りっぱな行いや品性」「すぐれた人格者」と国語辞典にあります。また、素心学塾塾長の池田繁美先生は、「徳」のことを「思いやり」とおっしゃいます。

家庭での以前のわたしは、「徳」ではなく「得」を考える行動がおおかったように思います。一人でゆっくりとDVDを観たいがために、まだ遊びたがる、小さかった子どもたちを無理やり寝かしつける。ゲームをしていることをとがめられないために、戦略的に家事を手伝う(念のためですが、現在ではゲームは卒業しております)。夜おそく飲み事がつづき家庭にいる時間が少なくても、休みの日に家族を遊びに連れていくことで、帳消しになると思っていた、などです。つまりわたしの行動は、「自分がくしたいからくする」という打算的な考えからでした。

「謙虚さがなくなる兆候」の10番目には、「打算的になる(損得勘定がしみつく)」とありますが、正に絵にかいたような謙虚さのない行動だったと、我ながら感心します。

一方で、わが子の損得ない行動に気づくようになりました。いつも料理をつくってくれるからと、妻と一緒にキッチンに立つ姿。「まいにちお仕事ありがとう」とマッサージをしてくれる行動。買い物袋が重そうだからと、サッと荷物をもってくれるさり気なさ。食事の際、自分のものより他の家族の食事をよそおう気配りなど。これらの子どもたちの行動は損得の「得」ではなく、思いやりの「徳」だと感じたとき、何とも心地のよい清々しい気持ちになり、同時に自分が恥ずかしくなります。

さいきん、「名もなき家事」に気づき行動できるようになってきました。例えば、食器をならべる・下げる。調味料や食べ残しの食品をラップして冷蔵庫にしまう。日用品が切れたら交換する。タオルを替えるなどです。「損して徳とれ」の「損」とは、自分の時間や労力のことで、「徳とれ」とは、その時間や労力を打算的ではなく、惜しみなくつかうことではないかと考えるようになりました。もっと自然体で「損して徳とれ」の行動ができる人を目指したいと思います。

加来 寛

